

大好き！絵本

初瀬 恵美



ご入園、ご進級おめでとうございます

今年の4月7日、岐阜市に不登校児専門の公立中学校(草潤中学校)が開校されるというニュースをききました。学校のパンフレットには「これまでの学校のシステムに合わせることに疑問を感じ、不登校を経験した生徒のありのままを受け入れ、個に応じたケアや学習環境の中で心身の安定を取り戻しつつ、新たな自分の可能性を見出すことを目指します。」と書かれていました。開校に先立った開校除幕式・内覧会で、京都大学総合博物館准教授、塩瀬隆之氏が行ったスピーチが話題を呼んでいるそうです。内容は、教育長から、「理想の学校ってどんな学校だと思うか？」と聞かれたとき、『バーバパパのがっこう』のような学校」ということを即答したエピソードをふまえたものでした。(詳細はネット(Forbes Japan)等をご覧ください。)



『バーバパパのがっこう』

作：アネット＝チゾン

タラス＝テイラー

出版社：講談社

今回ご紹介する絵本は、その塩瀬さんが理想とした『バーバパパの学校』という絵本です。ある日、バーバパパの家族が学校へ行ったとき、学級崩壊のような状態でした。先生は「もう、おてあげだ！」と市長さんに泣きついていました。大人たちは「子どもは、びびりしつけることが かんじんだ。」と口をそろえて言っています。でも、バーバパパはその考えに反対でした。「子どもは、楽しみながら 勉強させて やらなくっちゃ いけません。」と言って、新しい学校を創りました。バーバパパの家族は、パパとママと子どもが7人。得意なことが皆それぞれにあり、しかも体が柔らかくて、いろいろな物に変身できるという、体質を持ち合わせています。子どもたちにとっては、すごく魅力的な家族です。バーバパパの家族はそれぞれの得意なことを生かして、子どもたちの興味や関心に合わせて、カリキュラムを組み立てました。子どもたちは大喜び！大荒れしていた姿とは違って、大好きな事に熱中します。また勉強だけでなく、子どもたちにぴったりの元気な遊びや体操もつくりだし、力の発散場所も用意しました。こうして、子どもたちは学校でいろんなことを勉強しました。「だけど、なによりも すばらしいのは みんな、みんな、たのしくしあわせに やって いると いう ことです。」と締めくくられています。まさしく、草潤中学校の目指すところと似ています。そして、河内からたち保育園が目指すところとも似ています。

この絵本のすばらしさは、今から約45年ほど前に、今の教育にとって必要な事を描いていること。そして、そんな難しさはさておいて、約45年間、子どもたちがその絵本の世界観に没頭できるくらい楽しい世界を作り上げていることだと思います。今日も子どもたちと一緒に絵本を見ました。すると、おしゃべりがとまらないほど、次から次へと話し出しました。音楽の授業のところでは、犬と猫の絵を見て「にゃわ〜ん♪」と歌ったり。どこにもそんな言葉が書かれていないのに、絵を見ただけで思わず口に出してしまう言葉の数々…。ぜひ、長年にわたり愛され続けている『バーバパパパシリーズ』をお子さんと楽しんで、楽しみながら奥深さを感じていただけたらと思います。

4月



誕生日おめでとう

